

2月中旬刊行予定

貴店番線印

冊

池内了著
原発事故との伴走の記

ISBN978-4-88059-412-5 C0040 予価¥2000 四六判並製

而立書房

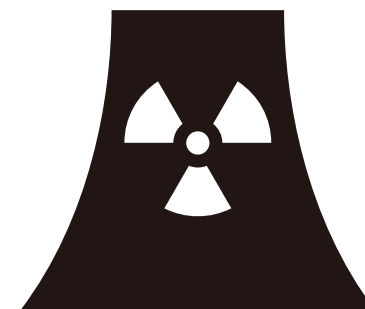
而立書房 2月新刊のご案内（委託受注〆切 1/20）

科学エッセイ

ばんそう
原発事故との伴走の記

池内了（総合研究大学院大学名誉教授
名古屋大学名誉教授）著

四六判並製256頁 本体予価¥2000+税 ISBN978-4-88059-412-5 C0040



脱原発に向けてできること——。

福島原発事故から8年、折にふれて書き継がれてきた著者の原子力に関する発言を一挙収録。

放射能との付き合い方、再生可能エネルギー、脱原発を決めたドイツの挑戦と困難、原子力ムラ、再稼働、廃炉のゆくえ、原発と司法権、などなど。

原発事故を、私たちの文明の転換点として捉えなおす道筋をしめす。

著者コメント

本書のタイトルを『原発事故との伴走の記』としたのは、まさに原発事故に遭われた人々に寄り添い、一緒に走っているつもりで書き綴ってきた思いを表すためである。（中略）本書の文章を読みながら、過去を思い出しつつ、現在はどうかかを検証してみる、そんな作業をする材料にしていただければ、と思っている。原発事故はまだ終息しておらず、福島の苦悩はまだ続くのだから。

目次

- I 文明の転換点としての原発事故
3・11から未来を創造する / 専門家の社会的責任を問う / 核と人類は共存できない、か？ / 原発から自然エネルギーへ etc...
- II 原発を知るためのキーワード
ベクレルとシーベルト / 放射線被曝問題 / 再稼働 / 「生活の電力シフト」の提案 etc...
- III 脱原発への道
未曾有の天災と人災 / 浜岡原発の停止決定 / 同調本能・同調圧力 etc...

ご注文は **而立書房** まで
FAX 03-3292-8782

<http://www.jiritsushobo.co.jp>